

【生薬名】 羌活 *NOTOPTERYGII RHIZOMA*

【起源植物】 和名なし *Notopterygium incisium*



【科名】 セリ科 *Umbelliferae*

【別名】

【薬用部分】 根茎および根

【主成分】 精油（リモネン、ピネン）、クマリン誘導体、

【薬性】 気味は辛苦温、帰経は膀胱腎に属す

【効能】 ●祛風解表・祛風湿・止痛

●悪寒発熱関節痛頭痛など外感風寒によい

●風湿による関節筋肉の疾患に良く特に上半身の筋肉痛腰背正中部の筋肉の冷感強ばりのある寒湿の強い者に適す

●風湿による顔面神経麻痺によい

●味が濃く性質が激しいので多く用いると嘔吐を生じやすい

●1日3～9g

●羌活は太陽経の薬で燥散の性質が強く、よく発表させて、風寒表証に適用されるべきものである

●独活は発表の効無く、少陰腎経の薬で細辛とともに用いて少陰の頭痛に効果がある

【出典】 ●羌活 微温風を祛り湿を除き、身痛頭疼筋を舒べ骨を活す。(薬性歌)

●療風寒湿痺、頭項頸腮顔面腰脊手足筋骨関節拘攣疼痛、一切眼疾、赤痛、障翳、歴節痛痺、皮膚苦痒、瘰癧、透關利節。(一本堂薬選)

【備考】 ●羌活の性味激しく発汗解熱作用が強く解表に適している

独活は味は淡で穏やかな性質で祛湿の力が強く、痺症に多用い同時に使えば相乗作用により風湿による痺痛に対し効果的や

●

【処方例】 ●川芎茶調散茶中・疎経活血湯・二朮湯

●九味羌活湯、羌活勝湿湯・独活寄生湯・大防風湯